



## トピックス…①

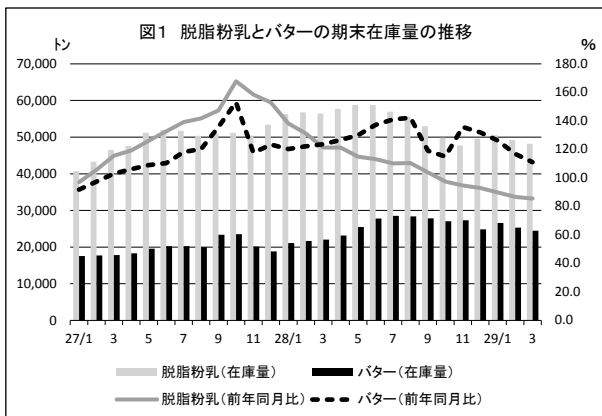
# 平成29年度の脱脂粉乳の輸入枠を拡大

農林水産省は5月25日、脱脂粉乳の消費量の増加が見込まれることから、本年度の脱脂粉乳の輸入枠について、当初の13,000トンに21,000トンを上乗せした34,000トンにすることを発表した。バターについては、今後とも需給の安定が見込まれることから、当初予定の輸入枠13,000トンを変更しないとした。

### 平成29年1月の輸入決定

農林水産省は平成27年度から、1月に翌年度（28年度）の乳製品のカレントアクセス分（義務輸入量：生乳換算137,000トン）の輸入を決定し、5月と9月に追加輸入の判断を行ってきた。この手法に対しては、輸入の予見性が高まり、バターの安定供給に寄与したとの評価がある一方、年間の輸入数量全体が不明であり、輸入バター等の調達計画が立てづらいため、年間の輸入数量の目処を示して欲しいとの意見があった。年間の輸入数量の目処を示すことにより、乳業メーカーは、計画的に輸入バターを業務用で使用し、業務用に仕向けていた生乳を家庭用バターの生産に回すことにより、家庭用バターの安定供給につながるからである。

このため平成28年度からは、1月に翌年度（29年度）のカレントアクセス分のみではなく、翌年度全体の需給を見通した輸入予定数量を示し、5月と9月にその時点の情勢を踏まえて修正する手法に変更した。平成29年1月に決定された29年度の輸入予定数量は、バター13,000トン（生乳換算160,420トン）と脱脂粉乳13,000トン（同84,240トン）であった。



資料：農畜産業振興機構

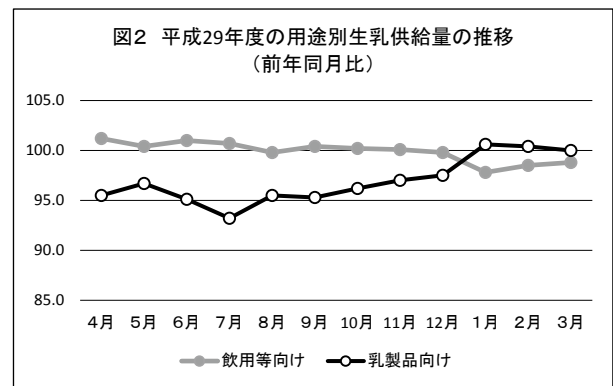
### 平成29年5月の輸入判断

図1に示したように、平成29年3月末のバターの在庫量は対前年同月比11.0%増の24,000トンの高水準で、また29年度の輸入枠13,000トンの入札も4月以降毎月実施する予定になっており、バターの需給は今後とも安定的

に推移する見込みであることから、輸入枠の変更は行わないこととなった。

一方、脱脂粉乳については、これを利用したヨーグルトの生産量が増加しており、平成28年6月以降在庫量が減少傾向で推移し、29年3月末の在庫量は対前年同月比14.6%減の48,000トンで、29年度の消費量も増加することが見込まれている。そこで農林水産省は5月25日、平成29年度の脱脂粉乳の輸入枠を、当初の13,000トンに21,000トン（生乳換算136,080トン）を上乗せした34,000トン（同220,320トン）に修正することを発表した。

なお、同日、Jミルクが公表した平成29年度の需給見通しでは、減少を続ける乳牛頭数に回復の見通しが立たないうえ、牛乳類の堅調な消費が見込まれるため、生乳需給のひっ迫傾向が続くとしている（図2参照）。このため、乳製品の期末在庫量については、バターは当初の輸入枠を含めると対前年比19.1%増となるのに対して、脱脂粉乳は当初の輸入枠（13,000トン）を含めても対前年比15.5%減で、在庫水準も前年同期の4.3カ月分から3.6カ月分へ目減りする見通しである（表参照）。



資料：Jミルク

表 平成29年度のバターと脱脂粉乳の需給見通し

単位：万トン、%

	生産量	輸入 売渡数量	出回り量	期末 在庫量	対前年比
バター	6.0	1.8	7.3	2.9	119.1
脱脂粉乳	11.7	1.3	13.7	4.1	84.5

資料：Jミルク

注) 脱脂粉乳は当初輸入枠のみで、追加の2.1万トンは含まない。